

札幌市北一条地下駐車場 地下発電機設置を計画

躯体整備先行 一般土木で発注へ

札幌開建

札幌開建は、札幌市北一条地下駐車場において、停電時に電力を供給するための地下発電機を設置を計画している。本紙調査によるもの。先行して、地下発電機躯体の整備を行う見通し。工種は一般土木で、上位等級となることが予想される。災害対策として早期の発注を目指すため、近く工事情報を公表する見通し。

者が安全に避難等の行動をとることができるよう、地下発電機を設置する。設置に当たっては、先行して、地下発電機躯体を整備する見通し。工種は一般土木で、大規模工事となる。

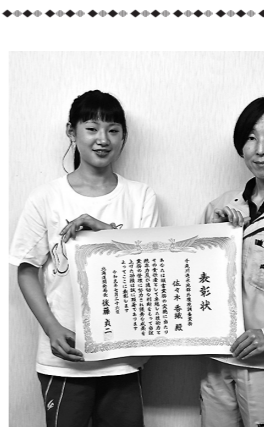
策定 社内認識徹底が課題

BCPアンケート調査結果

札幌協

札幌建設業協会(岩田圭剛会長)が本年度、会員企業に行ったBCPアンケート調査の結果が明らかに。策定している企業は、課題と将来の方向について「社内認識の徹底と周知活動の推進」が複数回答で24件と34%を占めた。一方、策定していない企業では、回答した9社中、8社が「策定を検討・環境を整えれば」という前向きな内容だった。

協会では有事での迅速な対応を図るため、2014年に60ページに及ぶBCPの策定書類を作成。その後、翌年の15年から協会と



開発局優良工事等表彰局長表彰受賞
佐々木香織さん(北開水工コンサル)の娘・すみれさん

【帯広発】本年度開発局優良工事等表彰で局長表彰を受賞した(株)北開水工コンサルタント(音更)の佐々木香織防災環境部次長。表彰式には中学生の娘・すみれさんも同席し、母の雄姿を目に焼き付け、喜びを親子で分かち合った。すみれさんに、建設産業はどのように見えるのか、率直な思いを聞いた。

＝関連記事「横顔」欄＝

当日の表彰式の感想は「男の人ばかりだった」。母親が勤務する北開水工コンサルタントでは、ワークライフバランスの実現など働き方改革の推進に会社を挙げて取り組んでいる。

その会社でもテレワークを導入し、在宅しながら仕事ができる体制をいち早く整備した。すみれさんも「自分が家での推進に会社を挙げて取り組んでいる」と話す。人

「仕事頑張る母は誇り」

ワークライフバランス実現する就労環境

それでも、女性技術職員の数口減少社会にあって、共働きの割合はどしどし少ない。コンサル業界でも、テレワークを導入し女性の入職促進を図っている界でも求められている。

すみれさんは局長表彰の受賞式での母の姿について「格好良かった。いつも仕事を頑張っているのが表彰されて良かった」と誇らしげに胸を張った。

佐々木次長と娘のすみれさん(左)

のための条件整備の設問を設け調査票を送付した。

このほか、協会への要望では、「災害対策の普及啓発とBCPセミナーの定期的開催」を望む企業が7割を占めた。

アンケートに回答した企業は、策定企業で33社、未策定企業で9社。策定企業では、BCP策定の効果について約7割の企業が「リ

一方、未策定企業ではBCP策定の見込みについて「将来、策定する方向で検討」44%、「条件や策定の環境を整えれば」44%と8社が策定に前向きな回答だった。策定の条件整備は複数回答で「行政機関からの具

地域づくり会議遠征ブロック30日に開催

網走開建とオホ総振局

【網走発】網走開建とオホ総振局は、30日、日午後2時から紋別市民会館で2019年度オホ総振局地域づくり連携会議(遠征ブロック)を開催する。

第34回全道会員大会に当たって

第34回北海道建青会全道会員大会が、あす27日に函館市内で開催される。4巡目のスタートに当たる今大会のテーマは「価値創造 魅力ある産業へ、選ばれる企業へ」。

「これまでの取組の成果や課題を確認した上で、10年後を見据えた道しるべのようなものを見たい」との思いを説明。新しい働き方の可能性についても全道の会員と認識を共有できれば」としている。

インタビュー



価値創造

～魅力ある産業へ、選ばれる企業へ～
第34回 北海道建青会全道会員大会

2019 9/27

■今大会に込める思い

1986年に第1回の全道会員大会がこの函館の地で行われ、今回は4巡目のスタートとなります。また、元号が令和となり、新時代の幕開けの大会となります。

そうしたタイミングに当たり、これまでの活動をいったん振り返ってみて、どういった成果をもたらしたのか、今後の課題は何なのかという点を確認したいと考えています。

その上で、5巡目が始まる10年後を見据えたときに、私たちが持続的発展を遂げている姿をどう描いていくのか。甚大な自然災害が頻発する中、地域住民の安全・安心で快適な暮らしを守る役割を果たし続けていくためにも、その道しるべのようなものを見たいと思っております。

10年後見据えた道しるべを

建設業全体のイメージアップに向けては、すでに全道各地で様々な取組が進められてきていますが、その成果と今後の課題を明らかにできればと考えています。また、i-ICTの活用など新しい動きも次々と出てくる中、それらも含めた建青会の活動のあり方を願っています。

■基調講演とパネルディスカッションのねらい
基調講演では、ブランド性を取り組み、成功を収めている三和建設(大阪)の森本行則専務に講演していただきます。同社は「つくる心」を掲げ、それを具現化するための様々な取組を展開していますが、その経緯や背景も含めて具体的な実践内容を紹介したいと思います。

新たな働き方の可能性も

建設業はBtoBビジネスが主体で、一般市民へのPRが不得手という側面があります。価値を創造して効果的に発信し、若者に選ばれる企業となるためのヒントを会員に持ち帰ってもらいたいと思います。

パネルディスカッションでは、ここ数年進めてきた函館建青会と函館高専の連携・交流について、高専の教授や学

北海道建青会会長

渡辺 一史氏

生として参加されていた方が客観的な評価もいただきながら、活動の成果と課題を明らかにしたいと考えています。